

安心して暮らせるまちづくりのために

栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

30号
2019-11

2019 年度 第2回研修会 開催案内

2019年（令和元年）は風水害が全国各地で発生し、その恐ろしさをまざまざと思い知らされました。自然災害には想定外が付き物ですが、その被害を少しでも減らすためには個人ベースの備えはもちろんですが、行政・社会福祉協議会・地域防災拠点・町内会自治会などの連携と備えが一層大切となります。各機関の連携の現況を認識し、どうあるべきかを考えるための一助としてこの研修会を企画しました。

皆様のご参加をお待ちしています。

クロストークⅣ「災害時にどう備えるか」 ～地域のつながりをめざして～

日時：12月1日（日）13時30分～16時

場所：ピアハッピー栄（栄区福祉保健活動拠点）多目的研修室

対象：地域防災拠点関係者、防災に興味のある方

内容：

1. 説明

- ◆台風15・19号等の被害状況・対応について

……栄区役所危機管理担当係長 御所脇佑介

- ◆地域防災拠点について

……栄区役所危機管理担当係長 御所脇佑介

- ◆災害ボランティアセンターについて

……栄区社会福祉協議会

2. クロストーク：「防災訓練について」

……参加者全員で意見交換

主催：横浜栄・防災ボランティアネットワーク、栄区社会福祉協議会 後援：栄区役所

※当日、直接会場へお越しください

－ 活動報告 －

千葉県飲料水支援レポート

「台風 15 号」の千葉県に「飲料水支援」を実施しました。

9月8日に発生した「台風15号」は、千葉県を中心に広範囲な停電や断水に加え家屋の損害など大きな被害となりました。私はこれまで「神奈川県赤十字奉仕防災ボランティア」として「東日本大震災」に三度派遣されたほか「たい焼きボランティア」として被災地で焼いた「たい焼き」は32,000枚を超え、「横浜で何かあったら助けに行くよ。」と、いつも声掛けされていました。

報道によれば「台風15号」は予想を超える被害となり、生きるための「飲料水」の必要性を考え、9月12日「2リットルボトル36本」を新規購入し、備蓄していた「10リットルポリタンク21個」を満水にし、アクアライン経由で千葉県を目指しました。千葉県内の「コンビニ」の多くが閉店中という情報もあり、午前6時に訪問した「海ほたる」上のローソンの棚には食品等が満載でしたが、半数のお客さんは千葉に向かうことから直ぐに売り切れるとのことでした。

千葉県内に入ると信号の半数は停電のため機能せず、「コンビニ」も閉店状態、開店している「ガソリンスタンド」は長蛇の列でした。訪問した「市原市役所区所」では「飲料水と食糧」の配給が報道され多くの市民が訪れることで物資置き場は欠品状態でした。私たちのような「ボランティア」の持ち込みも大歓迎でしたが、そこに「物資」は見られませんでした。

帰浜後「小菅ヶ谷第一町内会防災プロジェクト」のメンバーと協議しましたが「自助という備え」の大切さを皆様で再認識したことから、これまでの「災害支援経験」から得て編集した「自助攻略読本」の全戸配布に検討することになりました。これで「地域防災力」は確実に進歩すると思います。

今後も「たい焼き隊」として千葉県を中心に被災地支援を続ける予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。
(連絡先：090-8170-6337 鈴木幸一)

2019年度(令和元年)第2回災害ボランティアネットワーク Bブロック会議報告

日時：2019年10月15日(火) 18:30～20:00

場所：磯子区福祉保健活動拠点 参加：宇田川、藤田、宇都宮、鈴木、山口

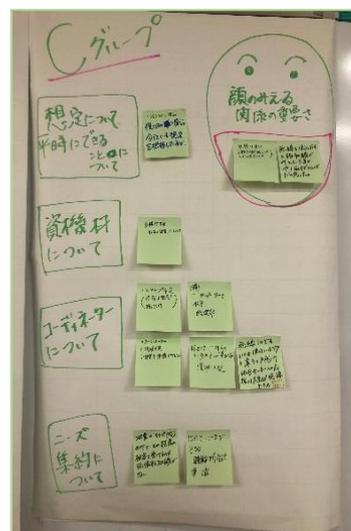
今回のBブロック会議では、発災時における各区災害ボランティアセンターの連携シュミレーションを実施し、シュミレーションの実施を通して得た気づきを他区の方と共有するグループワークを行いました。各区の想定は無線を利用し報告しあうことで無線を利用する訓練も兼ねていました。

シュミレーションを通して得た気づきを他区の方と共有することで他区の災ボラメンバーと交流する機会となり、平常時に行える顔の見える関係づくりであったと感じます。

Bブロック会議を通して、他区の方とも顔の見える関係を目指していくことも、発災時に連携するための第一歩であると改めて感じたBブロック会議でした。

次回は令和2年2月18日18時30分～実施予定です。

幹事区は金沢区となります。





「上郷苑」の防災訓練

皆さんの手を借りてご利用者を安全な所へ避難誘導!!

地震・火災・土砂災害・福祉避難所と年々訓練が多くなってきている中、上郷苑ではいろいろな災害を想定して訓練を行っています。日中の想定となると入所者の皆様と日勤職員、そしてデイサービスご利用の皆様、委託業者やご訪問されたご家族様が訓練に参加しています。訓練では非常ベルが鳴動、職員が防災監視番にて火災発生場所を確認、火災発生状況を緊急一斉放送するとご家族の皆様も緊張した表情で避難誘導をして下さいます。



緊急一斉放送の後、初期消火にあたる介護職員と相談員

火災訓練は何回か実施している事もあり、事前の指示通りに動いてアナウンスの指示がなくても必然的に在苑者に適切な声掛けが行われ、施設内の安全な場所への避難誘導がなされています。今後も日々訓練をした後の反省点もふまえ、万が一の非常時に備えて緊張感を持ち、迅速かつ的確な対応が取れるよう繰り返しの訓練計画を考えていきたいと思っています。

救急救命講習（心肺蘇生法・AED講習）

今年も3回に渡り栄消防署上郷消防出張所より5体の救急救命用人形とAEDをお借りして57名の介護職員が講習を受けました。日常は勿論のこと、災害時でも起こりえる事態に職員全員が対応できるよう毎年講習を行っています。

特別養護老人ホーム 上郷苑

特別養護老人ホーム上郷苑は昭和58年9月に、横浜市栄区で最初の特別養護老人ホームとして、緑豊かな上郷の地に開設されました。新たに平成19年7月に個室ユニットケア施設として東館をオープンしました。

- ・本館（従来型） 定員104名（入所100名 ショートステイ4名）
- ・東館（ユニット型）定員100名（入所90名 ショートステイ10名）
- ・デイサービス 定員17名

横浜市栄区野七里1丁目36番1号 TEL045-891-6066 FAX045-893-3038

「いざ！！ 2019 タッチーキャラバン」

30度を超える蒸し暑い9月8日の日曜日、本郷第三地区の福祉保健計画推進母体である、「支えあいネットワーク」を主催とした、地域の子育て世帯向けの防災体験ゲームイベント「タッチーキャラバン」が本郷小学校体育館にて開催されました。

タッチーキャラバンとは、元々、阪神大震災での経験を教訓にした、いざという時に役立つ情報を楽しく身につける「いざ カエルキャラバン」という取り組みを、栄区版にアレンジしたもので、7つの防災体験を、それぞれの体験ブースで何度でも繰り返しチャレンジすることができる仕組みになっています。

体験の内容は、火災の煙から身を低くして逃げることを身につける「キャタピラーレース」・的あて「水消火器」・毛布を使ってけが人などを救助することを学ぶ「毛布で担架」・がれきの下からジャッキを使って救助する「ジャッキアップ」・防災の知識を増やす「カードゲーム」・小さな子も楽しめる「防災紙芝居」・そして紅白の玉入れの玉を水の代わりに用いた「バケツリレー」。



参加者はスタンプラリー形式でポイントを貯め、最後にはそのポイントの数で防災グッズやお菓子を競り落とす「オークション」で盛り上がりました。

本郷第三地区では、防災訓練などの行事に、子どもや若い世帯の参加が少ない事が地域の継続した課題のひとつとなっておりますが、子どもも大人も楽しんで参加できる定番のイベントとして「タッチーキャラバン」が地域に浸透していき、「タッチーキャラバン」の各体験内容が少しでも各町内会・自治会の防災訓練のヒントとなり活性化していくことを期待したいです。

(中野地域ケアプラザ)



第14回 災害ボランティアセンター 開設・運営訓練のお知らせ

- ・日時：2020年2月17日（月）9:30～12:00
- ・会場：栄図書館、福祉保健活動拠点

※風水害に対する訓練を行います。

※防災講座協力：横浜栄・防災ボランティアネットワークでは、随時ご依頼を受けています。

日時・内容については右記へお問合せください。 栄区社協：TEL 045-894-8521